

# 「東京ゴルフ倶楽部」の設立と展開に関する研究

坂本公紀

広島大学大学院総合科学研究科

## “Tokyo Golf Club” Study on Its Establishment and Development

Hironori SAKAMOTO

Graduate School of Integrated Arts and Sciences, Hiroshima University

**Abstract:** This thesis is the historical study of “Tokyo Golf Club” as the first Japanese golf club established by Japanese in 1913, regarding the processes of its foundation, organization, and activities. This thesis consists of six chapters and several data. The introductory presents the purpose and significance of this study, the investigation of the preparatory study and the theme of this study, and historical materials.

The first chapter surveys the introduction of golf into Japan at the beginning, then the foundation of Kobe Golf Club, and the procedures of holding golf tournaments. The second chapter details the management organizations, the process of establishment of “Tokyo Golf Association” and “Tokyo Golf Company”, with the organization and management of Tokyo Golf Club, and the admission into the club and the social status of the members considered. The third chapter states the construction and facilities of Komazawa Course, the processes of moving the course to Asaka, with its construction. The fourth chapter shows the golf tournaments and social events given by Tokyo Golf Club.

The last chapter relates the conclusion of this study, and the historical significance of Tokyo Golf Club. The materials compiled at the end of this thesis are important documents for this study.

### 序章 本研究の目的と意義

本研究の目的は、1914（大正3）年に日本人による最初のゴルフ倶楽部として創設された東京ゴルフ倶楽部を取り上げ、この倶楽部の設立経緯及び組織と活動を実証的に解明することである。

本研究の主要な史料は、東京ゴルフ倶楽部史料室に保管されている未刊行文書である。

### 第1章 我が国における「ゴルフ倶楽部」の創設と展開

大正初期まで実際にゴルフプレーをした日本人は数えるほどであった。そのなかで「ゴルフ」という用語が1879（明治12）年に出版された『百科全集』の「體操と戸外遊戯篇」で紹介されている。大正期になると、松本虎吉著は日本で初めて『ゴルフ競技規則』（1923）を刊行し、昭和期になると東京ゴルフ倶楽部の会員である白石多士良がゴ

ルフ書『正しいゴルフ』（1931）を出版した。

最初に「ゴルフ」を経験した日本人は、英国や米国への海外赴任していた商社員たちである。なかでも、ニューヨーク日本人会の会員らは1902（大正7）年頃に「杖球（ゴルフ）倶楽部」を設立した。

明治後期に、神戸や横浜の居留外国人によって造られたゴルフ場は、彼ら専有のゴルフ倶楽部であった。大正期に造られたゴルフ場の多くは外国人らを招聘し、コースの設計や倶楽部の運営を委ねた。昭和期になると東京ゴルフ倶楽部の取組みが、各地のゴルフ場の新設の指針となった。特に、株式会社がコースを建設し、ゴルフ倶楽部に委任経営の形式を取った経営主体となったのも、この時期の特徴であった。

戦争という時局の変化は、ゴルフ場にも影響を与え、ゴルフボールが配給となり、ゴルフを自粛する通達が出された。朝霞コースは陸軍の譲渡要請に伴い買い上げられ、以後各地のゴルフ場の強制的な徴用が始まり、ゴルフ場の閉鎖となった。

神戸居留外国人のA.H.グループらによって、1903（明治36）年に神戸ゴルフ倶楽部が創設された。1906（明治39）年に横浜にNRCGAが創立されると、神戸対横浜の倶楽部対抗に続き、日本アマチュア選手権競技会が開かれた。1918（大正7）年の日本アマチュア選手権競技は、東京ゴルフ倶楽部を会場に開催された。この大会では、東京ゴルフ倶楽部の会員の技量が向上し、優勝や上位入賞を独占するなど、日本人が主導的な役割を果たした。

## 第2章 東京ゴルフ倶楽部の組織と運営

1908（明治41）年、ニューヨークでゴルフを学んだ井上準之助は、知友関係にあった樺山愛輔と荒川新十郎にゴルフ倶楽部の創設を呼びかけた。彼らは連名で東京ゴルフ会の創立趣意書を創り、「東京倶楽部」の会員を中心に、会員募集をした。集まったのは財界の重鎮で、47名が名を連ねた。出資金は預金され、年1,500円の利子は土地の賃借料の支払いに当てられた。当初は、井上が個人名で地主側と賃貸借契約を締結していた。しかし、1926（大正15）年1月に開催された東京ゴルフ会

の総会において「東京ゴルフ株式会社」の設立が承認され、土地の賃貸借は法人との契約に変更された。

東京ゴルフ倶楽部の運営を担う理事会体制は1920（大正9）年まで続いた。1928（昭和3）年10月、朝香宮殿下がそれまで空席であった倶楽部の総裁に就任した。続いて「理事長」「名誉書記」「名誉会計」が導入され、倶楽部の運営を委員会組織で実施する体制となった。東京ゴルフ倶楽部の会員は皇族会員、名誉会員、特別名誉会員、特別会員、正会員で構成されていた。1933（昭和8）年の会員名簿からは、氏名と職業分野が掲載されるようになった。入会希望者には書類審査や面談が実施され、会員の投票によって入会が承認された。

## 第3章 東京ゴルフ倶楽部のコースと施設設備

東京ゴルフ倶楽部の駒沢コースの選定は、東京近郊の駒沢村に電車が走っていることが主要な理由であった。用地は約35,000坪の広さがあり、5厘の地代で借地契約をした。1914（大正3）年1月にコースの造成が始まった。東京ゴルフ倶楽部はNRCGAの会員であるプレディとコルチェスターらに、コース設計から倶楽部の運営まで依頼した。9月に9ホールが完成した。クラブハウスは東京大正博覧会の迎賓館が移設された。

駒沢コースの用地は、契約更新毎に値上通告があり、地代の高騰は株式会社の経営を圧迫した。そこで、東京ゴルフ倶楽部は新たな移転先として埼玉県膝折村を選定した。建設計画を実施する特別委員会が設けられ、資金の大部分は株式会社の資本金を増資する計画であり、資金不足は「倶楽部債とハウスボンド」で充当された。一方、駒沢コースは東京横浜電鉄会社に無償譲渡され、パブリックコースとして開場された。

東京ゴルフ株式会社は、コース設計及び諸施設の整備のために英国からコース設計家のC.H.アリソンの詔聘をした。彼のコース設計は、従来の概念から想定も及ばない意匠であった。日本で初めて常緑芝でコース全面を造成したのは相馬孟胤であり、散水に万全を期した。クラブハウスの設計

を引き受けたA.レーモンドは、会員の社交を重視したクラブハウスの設計を行った。朝霞コースの開場は1930（昭和7）年5月1日であり、クラブハウスは同年12月に完成した。他方、東京ゴルフ倶楽部は財政立て直しのために振興委員会を設け、建設費の借入金や部債を償還する資金繰りに対処した。

## 第4章 東京ゴルフ倶楽部における競技会と社交

1922（大正11）年4月に東京ゴルフ倶楽部で日英皇太子の親善ゴルフが開かれ、これを契機に倶楽部の主要な競技会として摂政宮殿下賜杯、英国皇太子杯などが開催されるようになった。この他、会員の社交の場として各種の競技会が開かれた。

創設当初は、ゴルフを教える指導者はいなかった。その後は、英国や米国からプロを詔請した。1925（大正14）年に米国留学で最新のゴルフ技術を学んだ赤星兄弟が入会し、彼らは会員に近代ゴルフの理論を教え、技量の向上を図った。東京ゴルフ倶楽部では、競技終了後、親睦会や晩餐会、祝賀会がクラブハウスなどで開かれた。また、写真展や映画会などが開かれるなど、会員間の交流が重視されていた。

## 結章

東京ゴルフ倶楽部の設立経緯と活動を概観すると、倶楽部の特色として「国際性」「会員制倶楽部」「株式会社による運営」の3点を挙げるができる。

- ① 国際性。東京ゴルフ倶楽部の会員の中には、在日外国人が数多くいた。彼らの中には、駒沢コースや朝霞コースの設計を担当し、倶楽部の運営方法や競技規則など指導し、助言した。他方で、彼らはゴルフ技術を指導し、対抗競技などに出場した。
- ② 会員制倶楽部。東京ゴルフ倶楽部は、ゴルフを通じての会員の親睦を目的にした組織であり、社会的に高い地位にある会員で構成され

た「会員制倶楽部」であった。会員の中には皇族の他に日本を代表する財界の重鎮らがい

- ③ 株式会社による運営。会員が役員である株式会社側とゴルフ倶楽部の代表とが、東京ゴルフ倶楽部の管理と運営を担う経営主体であった。

戦前のゴルフ史における東京ゴルフ倶楽部の意義としては、東京ゴルフ倶楽部の会員による日本ゴルフ聯盟の設立、邦文ゴルフ競技規則の制定、日本アマチュア選手権競技大会などの開催の提唱、などが挙げられるだろう。

資料では、本研究における未刊行史料（東京ゴルフ倶楽部所蔵）が採録されている。

## 主な史料

土地貸借契約書

邦文ゴルフ競技規則（草案）

東京ゴルフ倶楽部庶務史料（事業報告書、総会資料など）

東京ゴルフ倶楽部会員名簿

東京ゴルフ倶楽部会報（『EVERGREEN』『知・夫』『会報』）

朝霞コースのクラブハウス設計図

## 主要な参考文献

西村貫一、日本のゴルフ史、文友堂、1930。

東京ゴルフ倶楽部50年史、1966。

東京ゴルフ倶楽部75年史、1989。

近藤高男、ゴルフ千夜一夜、日本ゴルフドム社、1940。

近藤彌一、最新ゴルフ術、誠文堂、1931。

撰津茂和、サムライのゴルフ、日本ゴルフ史話、光風社、1970。

日本ゴルフ協会、日本ゴルフ協会70年史、財団法人日本ゴルフ協会、1994。

財団法人尚友倶楽部、岡部長景日記、尚友倶楽部、1994。